

特別
対談スマートウェアで
介護現場の悩みを解決

三寺 歩 × そのだ修光

ミツフジ株式会社
代表取締役社長全国老施協常任理事
参議院議員

銀メッキ繊維が感知した心電、心拍などの生体情報をトランスミッターで自動発信(上)。アプリを組み込んだスマホ、タブレット、PC等で着用户の情報を常時、把握できる(下)

ミツフジ株式会社は京都に本社を構える西陣織の会社がルーツ。3代目の三寺歩社長は先代が開発した銀メッキ繊維を使い、IoTを活用した高齢者の見守りなどに効果を発揮するスマートウェアの開発に成功し、介護施設でのテスト導入を始めたとお聞きしました。職員負担軽減やケアの質向上に役立つ画期的な製品だと思えます。早速、三寺社長をお招きし、お話を伺いました。

そのだ 介護現場は深刻な人手不足で、今後も厳しさは増すばかりです。それに少しでも対応するため、先端技術の活用が叫ばれていますが、三寺社長のミツフジ株式会社では、画期的な製品を開発されていると聞きしました。

三寺 導電性の銀メッキ繊維のAGPops[®]を使ったスマートウェア「homon[®]」です。生地は不織布で速乾性があり、銀メッキ繊維を通じて取得した心拍や心電などの生体情報、さらにはトランスミッターの3軸センサーで転倒も検知し、これらの情報をスマホやPCの管理画面に知らせることができま

す。体調の変化を見守って高齢者の健康管理に役立ったり、転倒事故を早期発見するのが狙いです。昨年10月から、岩手県大船渡市の介護施設で1万着の採用に向けたテスト導入も始めました。

そのだ 職員にとって、利用者さんの状態記録は大切な仕事ですが、相応の負担が伴います。「homon[®]」を使えば、介護記録の手間も減らせるんですね。施設にとって、何かあればすぐに駆けつけるこ

とができるようになりますし、事務作業の軽減により、利用者さんのケアという本来の役割により集中できるようになります。

三寺 もともと銀メッキ繊維は父が開発したものです。当初は抗菌靴下などに応用しましたが、価格が高いことなどから、なかなか普及しませんでした。私は東京でサラリーマンをしていたのですが、この技術で家を盛り立てたい、そして繊維不況を改善したいという思いが湧き、会社を継ぐことにしました。入社して使い道を模索していたところ、IoTとの親和性が高く、最初は工場などで働く方々の見守りに使うことを思いつきました。そして、介護関連の方からお話を聞く機会があり、高齢者のケアにも役立てることができると気づいたので。もともと織物の会社であったので、肌ざわりはともソフトですし、手頃な価格で提供できるよう努めています。

そのだ まさに介護の現場では、こうした技術・製品を待っていました。介護の質の向上や業務負担軽減を実現するために、これからも介護業界に、ぜひお力をお貸しください。

さらに詳しく知りたい方は、ホームページにアクセスしてください。

そのだ修光 検索 または、<https://sonodashuko.com/>



公式LINEアカウント：

<https://page.line.me/psd1500s>

LINEの「友だち追加」より

友だち登録をお願いします!

